

AQUM NEWS

AOYAMA GAKUIN UNIVERSITY NEWS

青山学院大学

2020年7月～11月号

<https://www.aoyama.ac.jp/>



新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 拡大に伴う本学の対応

特集

2019年度 学生表彰&体育会表彰

Topics

「こどもテーブル@アオガク」を開催

飯島 渉教授(文学部史学科)が
日本記者クラブで講演

坂本 貴紀教授(理工学部 物理・数理学科)の
研究室で開発中の速報実証衛星ARICAが
JAXAの革新的衛星技術実証2号機として
2021年度に打ち上げ

No.97

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 拡大に伴う本学の対応

保証人の皆さまへ 阪本 浩学長からのメッセージ

現在のコロナ禍と呼ばれる前例のない状況の中、不安な日々をお過ごしになっている皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

本学では、学生の皆さんの安全を第一に考え、これまで①前期授業期間を2020年5月1日(金)から8月13日(木)〈祝日を含む15週間〉とすること、②原則として前期は学期終了までオンラインで授業を実施すること、③政府の緊急事態宣言等により実施していた青山・相模原キャンパスへの入構禁止措置を、6月8日(月)から段階的に緩和することをお伝えしてまいりました。皆さまのご理解とご協力に感謝申し上げます。

現在、オンライン授業による効果的な学習機会を提供するべく、教職員一同全力で対応しております。当面は、安全確保の観点から、従来のようにキャンパスに大勢の方が一堂に会して活動することはできませんが、感染拡大防止の取り組みを継続しながら、段階的に再開していきたいと考えております。また、本学は学習面に限らず、さまざまな困難な状況にある学生の皆さんが安心して学生生活に臨めるよう、以下の通り全学を挙げて支援してまいります。保証人の皆さまにおかれましても、これまで通りのご理解とご協力を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

本学の学生に対する経済的支援(総額11億円)

オンライン(遠隔)授業の環境整備支援

全学部・大学院(専門職大学院を含む)の正規生を対象に、オンライン学習の環境整備のために学生1名あたり5万円を支給いたします(申請受付は終了いたしました)。

給付型奨学金の拡充

学業継続のための給付型奨学金を拡充いたします。既存の奨学金の枠を拡大すると共に、新規の給付型奨学金を創設いたします。

2020年度前期学生納付金(学費)延納措置

個々のご事情に応じ、可能な限り柔軟に対応いたしました(申請受付は終了いたしました)。

※詳細につきましては、本学公式ウェブサイトの「新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) に関するお知らせ(まとめ)」または学生ポータルをご確認ください。



お問い合わせについて

*学生の皆さんからの各種ご相談を受け付けております。右記QRコードからご確認ください。



進路・就職支援

安心して進路・就職に関する活動を行えるよう、面接対策の動画配信や情報提供、またオンライン個別相談、オンライン企業説明会実施などの支援を継続しています。ご相談の受け付けについては、上記「お問い合わせについて」のQRコードから、ご確認ください。

学修支援

前期授業は原則としてオンラインで実施し、主に授業支援システム「CoursePower」と動画配信システム「Webex」を組み合わせて行います。

また、留学に関しまして、2020年度前期の各種留学プログラムは中止することとなりました。今後の留学や学内国際交流につきましては、右記QRコードから国際センターウェブサイトをご覧ください。



学生生活支援

心と体のケア

保健管理センターのページや学生相談センターのページに、アドバイスや学外の医療・相談機関の情報を掲載しています。



保健管理センター



学生相談センター

学生生活

クラブ・サークル、ボランティア活動等の課外活動は、中止を要請しています。安全が確認され、活動が再開可能となりましたら、感染防止に関する指導を行い、全力でサポートいたします。

教科書販売について

専用ウェブサイトからの注文を実施し、送料・代引手数料は本学負担のうえ、商品代金との引き換えで商品をお渡しする代引きのみとさせていただきます。詳細は右記QRコードからご確認ください。



☆上記は、2020年6月15日(月)現在の情報です。

5月1日(金)からオンライン授業を開始

本学は、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 拡大の状況を受け、学生の皆さんの健康と安全を確保することを目的として、2020年度前期授業開始日を5月1日(金)に繰り下げることとしました。

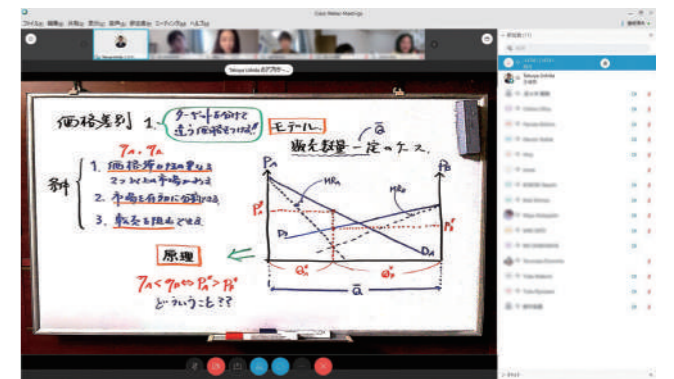
教室等での対面による授業を安全に実施できる時期の見極めが非常に困難であることから、5月1日(金)から開始した本学の前期授業は、オンライン化が困難な授業を除き、原則として学期終了まですべてオンライン形式で実施しています。

オンライン授業を展開するにあたり、運営の工夫や配慮した点などについて、内田 達也教授(国際政治経済学部 国際経済学科、副学長(広報及び将来構想担当))に聞きました。

困難を工夫で乗り越え、全授業をオンライン化

全学部・全学年の前期の授業を、5月1日(金)から原則としてすべてオンラインでスタートしました。実験や実習を伴うオンライン化が難しい科目についても、工夫によって、多くの科目がオンライン化を果たし、予定科目のうち約90%が開講されました。

準備にはまず、授業支援システムとして従来より本学で稼働していた「CoursePower」を用い、加えて動画配信システム「Webex」を導入しました。その上で、情報メディアセンターが「オンライン授業支援サイト」を開設して、CoursePowerとWebexの利用方法や、連携方法などの情報提供を順次行っていました。この情報提供は現在も更新しています。オンライン授業の実施にあたり、教員も学生も必要な機材をそろえて、システムをインストールしなければなりませんでした。通信環境は人それぞれです。その中で、新しいシステムを運用できるようにすることは、簡単ではありませんでした。さらに、政府による緊急事態宣言の発令後は、キャンパスへの入構が全面禁止されたため、対面でのサポートも残念ながらできませんでした。学生ポータルやオンライン授業支援サイトで分かりやすく伝えようと努めましたが、学生の皆さんには多くの苦労があったと思います。特に、まだキャンパスにも、本学の情報システムにもアクセスしたことのない新生を、どのようにしたらオンライン授業の受講が可能になるように導けるか、本学の多くの事務職員や、学部の教員たちが知恵を絞りました。新入生たちの学習への熱意もあって、現在、新入生も滞りなくオンラインでの授業に参加できています。

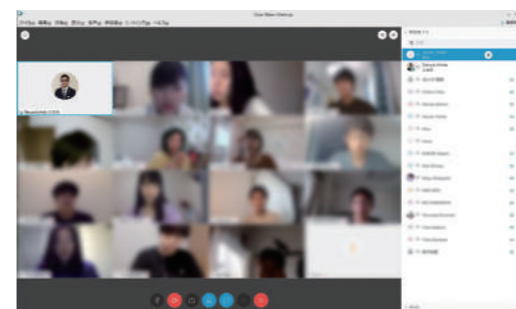


動画配信システム「Webex」を使用した授業の様子

配信側の配慮と受講生の意欲で充実の授業を

オンライン授業は、①ライブ講義を行うリアルタイム型②収録動画を視聴してもらうオンデマンド型③課題の配信による自己学習型の3種類です。私の授業は基本的にリアルタイム型で、事前に作った資料を提示するだけでなく、ホワイトボードを投影して、図やグラフを展開していきます。学生と対話しながら授業を進めていきますが、対話の環境が対面授業とは異なる難しさがあります。また、オンライン上では全体の雰囲気や個々の学生の反応がつかみづらく、画面の使い方の工夫も必要です。学生や教員がそれぞれの場所で、それぞれの機器で授業にアクセスしているので、授業の雰囲気も含めた、授業にとって適切な「場」をどのようにつくるかが大きな課題です。一方で、学生は録画された授業を見直したり、提示される資料が各自の画面に大きく表示されるなど、オンラインならではの利点があります。今後、オンライン授業と対面授業のそれぞれの利点が徐々に明確になっていくでしょう。

今回は新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の拡大防止のために、オンライン化を急ぎましたが、近い将来、通信環境として5Gが普及する時代が到来します。オンラインをどのように活用するのか、オンラインを用いた発展的で効果的な教育を実現するための一歩を大きく踏み出したと考えています。



受講生と対話して進めるリアルタイム型授業

2019年度に学問およびスポーツ分野等において活躍した学生、団体が表彰されました。受賞者を代表して、地球社会共生学部 地球社会共生学科3年の松本 航さん、経営学部マーケティング学科の芳賀 康浩ゼミナール、理工学部 機械創造工学科4年の鈴木 凜汰郎さん、卓球部(女子)に受賞の感想などについてお聞きしました。

2019年度 学生表彰受賞者

氏名	受賞内容・順位
古澤 崇彬さん(経営学部 経営学科3年)	公認会計士試験 合格
六車 幸起さん(経営学部 経営学科4年)	公認会計士試験 合格
豊田 樹さん(経営学部 経営学科4年)	公認会計士試験 合格
長井 昌大さん(会計プロフェッション研究科 会計プロフェッション専攻1年)	公認会計士試験 合格
鳥羽 輝さん(経営学部 経営学科4年)	第6回日本広告学会関東部会 学生広告論文賞 金賞
中村 大悟さん(経営学部 経営学科4年)	第6回日本広告学会関東部会 学生広告論文賞 金賞
清水 園夏さん(経営学部 マーケティング学科4年)	第6回日本広告学会関東部会 学生広告論文賞 金賞
早田 真菜さん(経営学部 マーケティング学科4年)	第6回日本広告学会関東部会 学生広告論文賞 金賞

氏名	受賞内容・順位
堀江 遼大さん(総合文化政策学部 総合文化政策学科2年)	プログラミング・コンテスト [Master the Mainframe2018]優秀賞
安倍 知奈実さん(理工学研究科 理工学専攻2年)	第80回応用物理学会秋季学術講演会 第47回(2019年秋季)応用物理学会 講演奨励賞
鈴木 凜汰郎さん(理工学部 機械創造工学科4年)	公益社団法人 日本鑄造工学会 第174回全国講演大会 学生優秀講演賞
江原 泰介さん(理工学研究科 理工学専攻2年)	2018年 日本経営システム学会 論文奨励賞
野々下 大輝さん(理工学研究科 理工学専攻1年)	2019年光化学討論会 優秀学生発表賞 (ポスター発表)
松本 航さん(地球社会共生学部 地球社会共生学科3年)	神奈川県青葉警察署からの感謝状授与



神奈川県青葉警察署から感謝状を授与される松本さん

詐欺をひとつとせず、アクションを起こす勇気を

松本 航さん

地球社会共生学部 地球社会共生学科3年
福岡県立筑前高等学校出身

学生表彰

受賞理由

2019年6月12日(水)、東急田園都市線あざみ野駅前の銀行のATMにて、ご年配の方が振り込み詐欺に遭いそうだと感じた松本さん。すぐに警察に連絡し、振り込みが実行されそうになったら阻止する心づもりで待機。駆けつけた警官により詐欺は未然に防がれ、神奈川県青葉警察署から感謝状が贈呈されました。

まさか私が振り込み詐欺の現場に遭遇するとは思っていませんでしたので、ニュースで報道されている詐欺事件は氷山の一角に過ぎないことを実感しました。今回の被害者の方と年齢が近い私の祖父母のことを考えると、詐欺をひとつとだとは思えません。実際に詐欺の場面に遭遇したら、一歩踏み出してアクションを起こす勇気が必要で、そういう意識を多くの人々が持つことで詐欺を減らせるのではないのでしょうか。

感謝状贈呈のご連絡を受けたときは、当たり前のことをしていただけなので驚きましたが、とても光栄に思いました。私が在籍する地球社会共生学部の英文名称は「School of Global Studies and Collaboration」ですが、Collaborationには「協力、協同、援助」といった意味合いがあります。今回、詐欺防止に協力できたことが Collaborationの実践につながり、人々がよりよく共生できる社会の実現の一助になれば嬉しいです。



升本 潔教授(中央)の授業風景

地球社会共生学部長 升本 潔教授より

松本さんは「メディア/空間情報」の専門領域を中心に学び、2年次後期にはタイのカセサート大学へ学部留学するなど、しっかりと学びを深めている学生です。詐欺防止は、共生をキーワードとする本学部の学生にふさわしい行動であり、とても頼もしく思いました。本学部はグロー

バル人材の育成を目標に掲げていますが、グローバル人材には語学や国際性だけでなく、他者を思いやり、共により良い社会を作り上げていくという共生の気持ちがとても重要です。松本さんの今回の行動は、こうした共生の志に通じる行動だと高く評価しています。これからも松本さんの活躍を楽しみにしています。



左から、鳥羽さん、中村さん、早田さん、清水さん

直感から始まった研究が 金賞受賞という大きな結果に

経営学部 マーケティング学科 芳賀 康浩ゼミナール

鳥羽輝さん/中村大悟さん/清水園夏さん/早田真菜さん

学生表彰

受賞理由

広告内で商品を推奨宣伝する人物(エンドーサー)にLGBTの方を起用した場合の効果を検証した論文「広告にLGBTという新たな選択肢—広告の信頼性を上げるエンドースメント研究—」の、テーマの新規性と裏付け資料の豊富さが評価され、第6回「日本広告学会関東部会学生広告論文賞」で金賞を受賞しました。

社会に受容されつつあるLGBTの広告効果を検証

近年、LGBT(レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダー)という言葉をよく耳にします。マスメディアでもLGBTの方が多く活躍し、社会的に受容の動きが広がっていると感じていた中で、LGBTに対するポジティブなイメージを広告に生かすことができないかと考えたことが論文執筆のきっかけとなりました。まずテーマを「エンドーサーにLGBTの方を起用した場合の広告効果」に決め、資料集め、論理組み立て、そして執筆という流れで論文を作成していきましたが、LGBTは比較的新しい研究対象であるため先行研究が少なく、資料集めが大変でした。そこで過去の論文以外にも新聞や雑誌、またSNSを使ってたくさんの資料を集めました。苦労はしましたが、その分だけ厚みのある内容になったのではないかと思います。

模擬実験を用いての検証も試み、結果として「LGBTの方をエンドーサーに起用した場合、広告の信頼性を高める」ことが支持されました。直感に突き動かされるように始めた研究でしたが、結果が出て良かったと思っています。

難しいテーマを乗り越えて大きな学びと金賞を獲得

私たち全員にとって、論文の執筆自体が初めての経験だったため、壁にぶつかることも多かったです。それだけに、第6回「日本広告学会関東部会学生広告論文賞」で金賞受賞という形で報われたことは大きな喜びでした。論文執筆を通じて学ぶことも多く、論理の構成力やLGBTの方に対する理解が身に付いたと思います。また、LGBTの方を特別視しない表現などの配慮を皆で心掛けて、論文を執筆しました。受賞に際しては「テーマの新規性と裏付け資料の豊富さ」が評価されたということですが、テーマの新規性の評価については狙い通りでした。裏付け資料について、前述した通り集めるのにとっても苦労をしたため、評価されたことは非常に嬉しかったです。

今回、難しいテーマを扱いましたが、工夫して乗り切れば大きな力に変わることを知り、新しいことにチャレンジする大切さを学びました。これからも既存の概念にとらわれず、さまざまな挑戦をしていきたいです。

(グループ代表 経営学部 経営学科4年 鳥羽 輝さん)

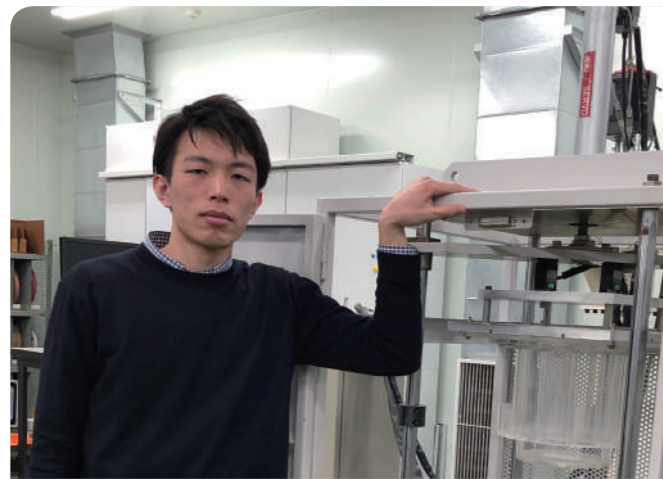


芳賀 康浩教授(1列目中央)とゼミナールの学生

指導教員・芳賀 康浩教授より

当ゼミナールではマーケティング戦略の諸問題について研究を行い、さまざまな企業のマーケティング戦略を分析する能力や、状況に合わせたマーケティング戦略を自ら提案する能力を養っています。今回の論文はタイムリーなテーマだったためか、学生たちは積極的かつ興味深

く取り組んでいたと思います。自らの主張を仮説として提示し、その根拠をデータによって示す力も育まれました。それは、社会に出てからも必要とされる力です。学会に論文を投稿するという貴重な経験ができた上に、金賞を受賞できたのは名誉なこと。それを自信にして、本学卒業後も生かしてください。



研究で使用した実験装置と鈴木さん

工場の完全自動化という目標のため効率的な鑄造技術を研究

鈴木 凜汰郎さん

理工学部 機械創造工学科4年
神奈川県横浜市立
横浜サイエンスフロンティア高等学校出身

学生
表彰

受賞理由

工業製品の生産手法の一つである「鑄造」は、現代のものづくりが求める多品種少量生産が困難とされています。そこで鈴木さんは砂型プレスキャスト法を研究し、有用性の評価を行い、公益社団法人日本鑄造工学会の第174回全国講演大会で論文を発表。「将来への発展性のある研究成果」と評価され、学生優秀講演賞を受賞しました。

工場の完全自動化に貢献できる新しい鑄造技術を提案

私は将来FA (Factory Automation : 工場全体の自動化) 事業に携わり、工場の完全自動化を実現することを目標にしています。そのため、大学では生産技術に関する研究を行いました。中でも鑄造という生産手法に注目しました。その理由は、さまざまな工業製品の製造に用いられながら欠点もある手法だからです。具体的には、歩留まり*1の低さや多品種少量生産への不向きといった課題があります。そこで新しい鑄造法である砂型プレスキャスト法*2を扱い、生産プロセスの効率化・自動化に貢献したいと考えました。

論文をまとめていくにあたっては、試行錯誤の連続でした。実験で用いた鑄物の形状が複雑であったため鑄型の作製が難しく、また実験条件の設定を何度か変えて繰り返し行う必要があったためです。学会発表までの限られた時間で成果を出すために、計画的に実験やシミュレーションを行うように心掛けていましたが、思うように成果を出せないことも多々ありました。

ひたむきに実験と向き合い学部生として名誉ある受賞

苦勞をしたおかげで研究を進めていく難しさを学び、収穫は多かったです。本研究は、「金属の充填中に鑄型内部の様子を観測できない」という鑄造の大きな課題に対して、「鑄型内の状態を推定

することを可能とする手法」を提案したものでした。学会発表に向けて発表資料を作成する中で、相手に研究成果を印象づけられるように内容をまとめる能力も身に付いたと思います。その結果、将来への発展性のある研究成果として評価され、とても嬉しかったです。

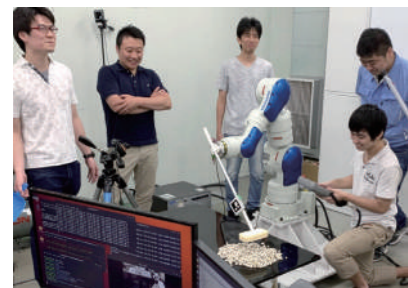
学生優秀講演賞を受賞するのは、ほとんどが大学院生であるため、学部生の私が選ばれることは全く想像しておらず、受賞を知ったときは信じられませんでした。しかし、人一倍の研究努力が報われたという達成感を得ることができました。これを励みに今後も頑張っていきたいと思っています。

学会発表で得た経験を技術者の歩みに生かしたい

今回、私の将来の目標にもつながるテーマで受賞することができたのは、田崎先生の熱心かつ丁寧なご指導のおかげであると考えています。研究を通して教えていただいた知識やアドバイスを、今後の人生にもぜひ生かしていきたいです。

大学を卒業後、新たに技術者として、鑄造という生産技術の研究を通して学んだことを生かして社会に貢献し、いつかは「工場の自動化の達成」という私の目標を実現すべく、努力していきます。

- *1 製造過程において、投入した原料や材料の量に対して、実際に得ることができた出来高の割合。
- *2 砂型鑄物生産技術の革新を目的に、下鑄型に湯道無しで直接注湯を行った後、迅速に上・下砂鑄型をプレスして鑄造させる方法。



田崎 良佑准教授 (左から2番目) と研究室の学生

指導教員・田崎 良佑准教授より

私の研究室は、「知技能ロボティクス研究室」として、ロボティクスと生産加工・制御工学技術を研究対象としています。さらなる技術の進展のために、企業・他大学・他研究室との共同研究にも積極的に取り組んでいます。

鈴木さんは学部生ながら、長い時間をかけて一つの問題を探究し、玄人的な解決ア

プローチで一定の研究成果を上げました。想定外の実験結果にも諦めず、最後まで逃げず、適度に教員の助言を求めて考え、理解する姿勢が印象的でした。2019年にスタートしたばかりの研究室で、研究設備や先輩の論文といった過去の蓄積がほとんどない状態でもエネルギーと能力を発揮し、大きな苦勞とやりがいを得たと思います。今後も鈴木さんの活躍を期待しています。



2019年秋季関東学生卓球リーグ戦で優勝した際の表彰式にて

練習の見直しと意識改革で諦めなかった優勝

卓球部(女子)

体育会
表彰

受賞理由

2019年度を通して、常に好成績を収めてきた卓球部(女子)。春季関東学生卓球リーグ戦で第3位、第89回全日本大学総合卓球選手権大会・団体の部(通称:インカレ)でも第3位という結果に満足せず、部員たちが一丸となって日々練習に励み、最後の秋季関東学生卓球リーグ戦ではついに優勝を果たし、体育会優秀団体を受賞しました。

悔しさをバネにして、とうとうつかんだ優勝

私たち卓球部は、春季・秋季のリーグ戦でもインカレでも、優勝だけを目指して練習してきました。しかし、2019年春季関東学生卓球リーグ戦では第3位。優勝するチャンスは十分にあったのですが、勝負がかかった場面で硬くなって実力を出し切れずに終わってしまいました。その反省と悔しさをバネに、第89回全日本大学総合卓球選手権大会・団体の部(インカレ)と秋季のリーグ戦では「必ず優勝する!」と思いを強くして、一人一人が自分の課題を見つけて練習に取り組むようになったと思います。

ところが7月のインカレでも、準決勝でストレート負けを喫して、3位入賞に終わりました。敗因は「挑戦者」としての気持ちが足りず、向かってきた相手の勢いにのまれたこと。悔いの残る結果となってしまいましたが、部員全員が敗因をしっかりと受け止め、次の秋季のリーグ戦では常に挑戦者の気持ちを忘れずに、どんな相手にも向かっていく姿勢を貫くことを決意しました。

そしてとうとう、2019年秋季関東学生卓球リーグ戦で優勝を果たすことができたのです。秋季のリーグ戦は、当時のメンバーで団体戦に出場する最後の機会でした。そのため、試合にかける思いもひときり強かったです。絶対に優勝したいと思い、前回までの反省を生かして、基本練習だけではなくゲーム練習や実践を

想定したメニューを多く取り入れて試合に備えました。その練習を通して、当時の主将の石川梨良さんを中心に皆が自分の役割を理解し行動することができるようになり、チームワークがより深まりました。負けそうな試合も多くありましたが、普段の練習で築きあげたチームワークのおかげで、諦めずに優勝することができました。

「挑戦者」として、また一から優勝を目指す

この1年、優勝という一つの目標に向かって、部員全員で練習に取り組んできました。実践的な練習を多く取り入れるなど内容を工夫しただけでなく、意識も変わりました。試合に出る人にも出ない人にも、必ず役割があることを自覚して行動できるようになったのです。それが、優勝につながったと感じています。

今回の「優秀団体」の受賞は本当に嬉しく、1年間頑張ってきて良かったと改めて思いました。受賞できたことで、部員それぞれ、本学の看板を背負ってプレーをするという意識を一層持てるようになったと思います。2020年度は優勝の喜びを一度リセットして、挑戦者の気持ちを忘れずに新しい気持ちで頑張りたいです。そして、春季・秋季のリーグ戦とインカレのすべてで優勝するグランドスラムの達成に向けて練習をしていきます。

(主将・総合文化政策学部 総合文化政策学科3年 熊中 理子さん)

PICK UP 「UNIVAS AWARDS 2019-20」において、本学の取り組みが受賞

一般社団法人 大学スポーツ協会(通称:UNIVAS(ユニバス))が開催した「UNIVAS AWARDS 2019-20」において、本学レスリング部 藤井 達哉 選手(経済学部 経済学科4年)が「パーソン・オブ・ザ・イヤー」で最優秀賞を受賞し、「青山学院大学スポーツキャリアプログラム(AGU-SCP)」が「学修機会確保に関する優秀取組賞」で最優秀賞を、「The Ivy Green Match開催」が「スポーツ統括部局/SA賞」優秀賞を、それぞれ受賞しました。

UNIVASは、大学スポーツの振興により「卓越性を有する人材」

を育成し、大学ブランドの強化および競技力の向上を図り、日本の地域・経済・社会のさらなる発展に貢献するために、2019年3月に設立されました。大学スポーツ全体の活性化を目的に、今回初めて表彰制度を立ち上げ、全国の加盟大学・競技団体より応募された合計111件の中から、各審査を経て各賞が選出されました。

なお表彰に関する詳細は、UNIVAS公式ウェブサイトでご確認ください。



Topics

「こどもテーブル@アオガク」を開催

2020年1月11日(土)に本学の学生が地域の小学生を青山キャンパスに招き、本学ボランティアセンターの主催事業として、「こどもテーブル@アオガク」を開催しました。

「こどもテーブル」とは、渋谷区社会福祉協議会が行う取り組みの一つで、子どもの学習支援やワークショップを行う団体などを、支援しています。S-SAP(シブヤ・ソーシャル・アクション・パートナー)協定を本学と渋谷区が締結し、協定に基づく取り組みとして本学の学生はこれまで、こどもテーブルにボランティアとして参加してきました。

今回は新たな試みとして、文化連合会「青山子ども会」に所属する学生が中心となり、本学を拠点とした「こどもテーブル@アオガク」を企画しました。また、国際政治経済学部公認学生団体「SANDS」に所属する有志の学生も、運営ボランティアとして参加しました。

当日は近隣の小学校に通う小学生13人、本学の学生12人が集い、キャンパス内を巡りつつ遊び場として用意された教室へ移動し、アイスブレイクゲームや羽子板風船リレーなど、一緒になって楽しめる企画内容で盛り上がりました。最初は緊張気味だった子どもたちも、時間がたつにつれて元気いっぱい遊んでいました。

今後も継続的に「こどもテーブル@アオガク」を開催し、今回参加した青山子ども会はもちろん、その他の学生団体にもアイデアや参加を募り、学生が持つ力を地域で発揮することが期待されます。



青学生が考えたゲームで元気に遊ぶ子どもたち

飯島 渉教授(文学部史学科)が日本記者クラブで講演

2020年4月3日(金) 13:30~15:00 日本記者クラブ10階ホールにて、「新型コロナウイルス」と題して、感染症の歴史が専門の飯島 渉教授(文学部史学科)が、20世紀以降の中国における感染症の流行と公衆衛生改善の取り組みや、疫病史観から見た新型コロナウイルス感染症(COVID-19)について講演しました。

詳細は日本記者クラブの公式サイトをご覧ください。



坂本 貴紀教授(理工学部 物理・数理学科)の研究室で開発中の速報実証衛星ARICAがJAXAの革新的衛星技術実証2号機として2021年度に打ち上げ

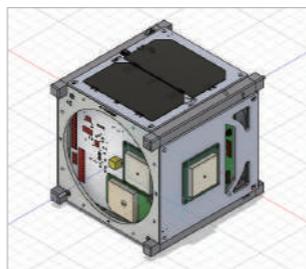
坂本研究室(理工学部 物理・数理学科 坂本貴紀教授、芹野素子助教)で開発中の超小型衛星「ARICA(AGU Remote Innovative Cubesat Alert system)」が、2021年度(予定)に内之浦宇宙空間観測所(鹿児島県)でイプシロンロケットにより打ち上げられます。

企業などが開発した部品・機器、超小型衛星、キューブサットに、軌道上での技術実証の機会を提供するJAXA(国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構)の「革新的衛星技術実証プログラム」における「革新的衛星技術実証2号機」の実証テーマの公募で、10cm角の「ARICA」が選ばれました。

坂本研究室では、現在利用可能な民間衛星通信に着目し、それらを現在開発中のARICAに搭載。近年注目を集める「突発天体」を

即座に地上へ速報する実証実験を計画しています。この実験が成功すると、突発天体の観測において手軽で、信頼性の高い速報システムの利用へ向けた道が開かれます。衛星全体や各コンポーネントの設計、製作、および、機能試験、さらには、地上に送信するデータの設計まで、すべてが坂本研究室に所属する学生主導で進められています。

本研究室で製作が進められ、実際に打ち上がる超小型衛星ARICAの今後にご期待ください。



超小型衛星ARICAの外観

Information

2020年度 前期授業のお知らせ

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大防止のため、2020年度前期授業開始日は5月1日(金)に繰り下げ、教室等での対面による授業を安全に実施できる時期の見極めが非常に困難であることから、前期授業は原則として学期終了まですべてオンライン形式で実施しています(詳細はP3をご確認ください)。

授業終了日は8月13日(木)とし、授業回数は、祝日(7月23日(木)・海の日、7月24日(金)・スポーツの日、8月10日(月)・山の日)も授業・試験等を行うことで15回を確保します(ただし専門職大学院は研究科により異なります)。

学事暦の詳細、オンライン授業の受講方法等の詳細については、学生ポータル、大学公式ウェブサイト等でお知らせしておりますので、本学から発信する情報を確実に取得くださいますようお願い申し上げます。

夏期休業期間中の窓口案内 対象期間8/14(金)~9/12(土)

原則以下の通り窓口を閉室します。

- 8月14日(金)~8月20日(木)〈一斉休業期間〉
- 土曜日・日曜日・祝日

※対象期間および閉室日は、変更になる可能性があります。随時、本学公式ウェブサイトでご確認ください。



夏期休業期間中の窓口案内の詳細は本学公式ウェブサイトをご覧ください。

2020年度 保証人の方対象説明会について

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大の影響に鑑み、5月末~7月に計画しておりました以下の説明会は、すべて中止となりました。

- キャンパス見学会(新生の保証人の方を対象)
- 学業説明会、進路・就職説明会
- ペアレンツウィークエンド(地区父母懇談会)

なお、説明会の内容の一部を本学公式ウェブサイトで公開する予定です(7月中旬予定)。ぜひ、ご確認ください。

問い合わせ先: 庶務部庶務課

TEL: 03-3409-8568(ダイヤルイン)

※詳細は本学公式ウェブサイトでご確認ください。



2020年度 公開講座

青山キャンパス

転換期の国際社会ー世界はどうなる?ー

9/26、10/3、10/10、10/17、10/24 土曜日 全5回
各回11:00~12:30

申込期間 8/12(水)~8/26(水)

パフォーマンス・アートのマーケティング

11/7、11/14、11/21、11/28、12/5 土曜日 全5回
各回11:00~12:30

申込期間 10/1(木)~10/15(木)

受講料: 無料

*渋谷区教育委員会後援

※新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大の影響に鑑み、上記催しについて、延期または中止等の可能性があります。詳細は本学公式ウェブサイトでご確認ください。

相模原キャンパス(市民大学青山学院大学コース)

AI(人工知能)の普及と私たちの生活ー社会情報学部の視点からー
10/17、10/24、10/31、11/7 土曜日 全4回
社会情報学部 各回10:30~12:00

「コミュニティ」を考える

10/17、10/24、10/31、11/7 土曜日 全4回
コミュニティ人間科学部 各回13:00~14:30

申込期間 9/1(火)~9/14(月)

受講料: 1,300円

問い合わせ先: さがまちコンソーシアム事務局
TEL: 042-703-8550



青山学院大学教育振興資金 保証人の皆さまのご支援を教育研究環境の改善につなげます。

日頃より本学の教育研究活動に関してご理解、ご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

2019年度に募集いたしました「青山学院大学教育振興資金」に対して過分なるご寄付をいただきまして誠にありがとうございました。今号では2019年10月1日(火)以降にご寄付いただきました皆さまを掲載の対象としております。

2019年度は、英語による授業の充実、海外インターンシップの拡充、海外派遣プログラムの多様化、統合研究機構による先進的な研究の推進、新たな図書館の建築計画の推進など、学習環境および生活環境の一層の改善に取り組んでまいりました。

この場を借りまして御礼申し上げますとともに、ご寄付くださった皆さまのご芳名を本誌に掲載させていただきます。

ご芳名掲載対象者 **188名** ご芳名掲載者: 48名 匿名者: 140名 ご芳名掲載対象期間: 2019年10月1日(火)から2020年4月17日(金)までのご寄付者

あ	青柳 徹 様	葛井 理恵 様	せ	瀬戸谷芳治 様	ひ	久恒 新 様
	秋山 文孝 様	加藤 修 様	た	高橋 栄一 様	ふ	船場 豊 様
	甘糟 幸信 様	加藤 隆之 様		高橋 晴久 様	ま	松尾愛一郎 様
い	入江 幸子 様	岸本 景子 様	き	竹内 常道 様	み	溝口 博史 様
	岩下 佳樹 様	北神 裕三 様		田中 貴重 様		宮本 麻子 様
う	内田 年昭 様	木村 稔 様	ち	千葉 純司 様	む	村上 基成 様
お	大田 敏幸 様	栗田 直人 様	つ	坪井 良彰 様	や	柳川 和雄 様
	大竹 太郎 様	小池 健一 様	と	道佛 直正 様	わ	渡邊 恵子 様
	大塚 隆史 様	小関 敏幸 様	に	西村和代子 様		渡邊 洋介 様
	大橋 克則 様	齋木 勝 様	は	畑 光男 様		
	奥隅 和美 様	坂井 和也 様		畑野 和幸 様		
	小原健太郎 様	柴田 将良 様		花崎 直彦 様		
か	片岡 和則 様	菅 祐治 様		林 仁一 様		

(五十音順)

※ご芳名掲載の意思表示は「教育振興資金ご寄付のお願い」に同封の振込用紙にて依頼しております。希望されない方、意思表示のない方、また、銀行のATM、インターネットバンキングを利用してご寄付され、意思確認ができない方につきましては、匿名で掲載させていただきます(今回匿名掲載された方で、ご芳名掲載を希望される場合は、庶務部経理課までお知らせください。次回掲載させていただきます)。

問い合わせ先：庶務部経理課
E-mail :
agu_supporters@aoyamagakuin.jp

感謝の気持ちを込めて

2019年度に2口以上ご寄付いただきました保証人の皆さまに、ウォッチトレイを贈呈いたしました。



第27回 青山学院大学同窓祭 AOYAMA GREEN FESTIVAL 2020 中止のお知らせ

2020年9月22日(火・祝)に予定しておりました「第27回 青山学院大学同窓祭」は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大の影響に鑑み、中止させていただきます。

問い合わせ先 ▶ 青山学院大学同窓祭事務局

[月・水・金 11:00~15:00] TEL: 03-3409-8990 FAX: 03-3409-8975 ※祝日を除く

主催：青山学院校友会大学部会

協力：青山学院校友会、女子短期大学同窓会、高等部同窓会、中等部緑窓会、初等部くすのき会、幼稚園いとすぎの会

2020年度 大学執行部、学部長・研究科長紹介



学長
阪本 浩
専門分野: 古代ローマ史
任期: 2019年12月~2023年12月



副学長(学務及び学生担当)
稲積 宏誠
専門分野: 情報理論、人工知能
任期: 2019年12月~2021年12月



副学長(総務担当)
小西 範幸
専門分野: 国際統合報告論
任期: 2019年12月~2021年12月



副学長(広報及び将来構想担当)
内田 達也
専門分野: 応用ミクロ経済学
任期: 2019年12月~2021年12月



文学部長・文学研究科長
伊達 直之
専門分野: 英語詩およびモダニズム文学と文化研究
任期: 2020年4月~2022年3月



教育人間科学部長・教育人間科学研究科長
遠藤 健治
専門分野: 心理学
任期: 2019年4月~2021年3月



経済学部長・経済学研究科長
平出 尚道
専門分野: 経済史学
任期: 2020年4月~2022年3月



法学部長・法学研究科長
申 恵丰
専門分野: 国際法学
任期: 2020年4月~2022年3月



経営学部長・経営学研究科長
安田 洋史
専門分野: 競争戦略論
任期: 2020年4月~2022年3月



国際政治経済学部長・国際政治経済学研究科長
末田 清子
専門分野: 異文化間コミュニケーション
任期: 2020年4月~2022年3月



総合文化政策学部長・総合文化政策学研究科長
茂 牧人
専門分野: 近・現代ドイツ哲学、宗教哲学
任期: 2020年4月~2022年3月



理工学部長・理工学研究科長
長 秀雄
専門分野: レーザー超音波、非破壊検査工学
任期: 2020年4月~2022年3月



社会情報学部長・社会情報学研究科長
宮川 裕之
専門分野: 情報システム学
任期: 2020年4月~2022年3月



地球社会共生学部長
升本 潔
専門分野: 国際協力論
任期: 2019年4月~2021年3月



コミュニティ人間科学部長
鈴木 眞理
専門分野: 社会教育学
任期: 2019年4月~2021年3月



国際マネジメント研究科長
中里 宗敬
専門分野: ファイナンス
任期: 2019年4月~2021年3月



法務研究科長
藪口 康夫
専門分野: 民事訴訟法
任期: 2020年4月~2022年3月



会計プロフェッション研究科長
町田 祥弘
専門分野: 監査論
任期: 2020年4月~2021年3月

Information

ソーシャルメディア(SNS)利用にあたって

近年、SNSの利用トラブルが増えています。SNSに不謹慎な画像を載せたことによる炎上、個人が特定されたことによるストーカー行為、無許可で撮影した写真をSNSにアップしたことによる人権侵害等。一度流れた情報は制御できません。十分注意して、利用してください。

SNSを 利用するための 5カ条

- 1 SNSにおいても**実社会と同じように社会的なルール**を守らなければならない
- 2 SNSに書き込んだ情報は**瞬時に世界に広まるもの**だということを認識する
- 3 友人だけではなく家族や学校など**誰に読まれても問題のない**内容にする
- 4 真偽の分からない情報は、**むやみに拡散**させない
- 5 他人を**誹謗中傷**したり**悪口**を言ったり読む人が**不快になる内容**を書かない

大学公式SNSのご紹介

青学の「今」を発信しています。



CLUB & CIRCLE 47 ボート部 (旧:漕艇部)

歴史あるボート部で、
一生の仲間と出会えた。

主務：経済学部 経済学科4年
森 啓喜 記

1966年に愛好会として発足し、1971年に漕艇部として体育会連合会へ加盟。2020年4月からは、新たにボート部としてスタートしました。約半世紀もの歴史を積み重ねながら実績も上げ、2019年は第4回東日本夏季競漕大会のM2X (男子ダブルスカル) で優勝しました。主に埼玉県戸田市の戸田ボートコースと



第4回東日本夏季競漕大会で優勝しました

神奈川県横浜市鶴見区の鶴見川漕艇場で、火・木・土・日曜日に練習を行いました。戸田市には合宿所もあり、週の半分は共同生活をしていたため結束は固く、このような一生の仲間と出会えたことが部活動の一番の収穫でした。

ボートは大学から競技を始める人も多く、誰もが全国大会でも活躍できる可能性とチャンスを与えられています。少人数で仲が良く、風通しが良い当部では、気兼ねなくお互いの考えを言い合える環境があります。切磋琢磨しながら、全日本大学選手権大会 (インカレ) 優勝を目標に練習に励んでいきたいです。

AGU NEWSについて

青山学院大学では、大学広報誌「AGU NEWS」を発行し、在学生の保証人の方々へ送付しています。

●最新号からバックナンバーまで、本学公式ウェブサイトでご覧いただけます。

●確実に保証人の方々へお届けするため、住所が変更になった場合は、学生ポータルを利用し、**学生本人が変更手続きをしてください。**

発行元：青山学院大学 政策・企画部 大学広報課 TEL：03-3409-8159 〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25

2020年6月30日発行

※本誌掲載の記事、写真、図版などの無断転載・複製を禁じます。本誌に掲載する人物の在籍年次や役職、所属や身分などは、原則取材時のものです。©2020青山学院大学